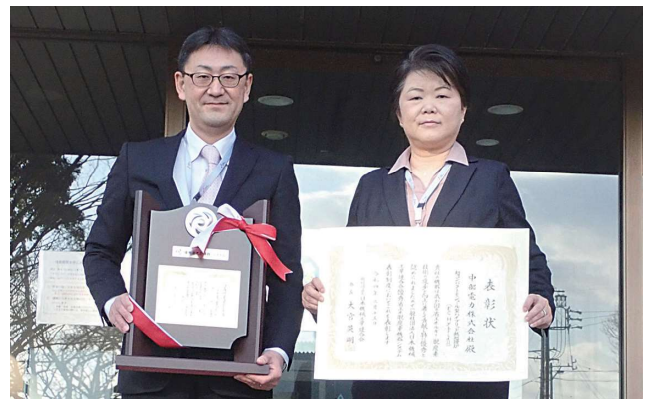


超コンパクトモジュール型ハイブリッド熱処理炉 「EC-Hybrid II」が日本機械工業連合会会長賞を受賞

先端技術応用研究所 先端技術ソリューショングループの棚橋研究主査が開発した超コンパクトモジュール型ハイブリッド熱処理炉「EC-Hybrid II」が、令和3年度優秀省エネ脱炭素機器・システム表彰「日本機械工業連合会会長賞」を受賞しました。

(株式会社エコムとの共同受賞)

輸送用機械等の製造工場では、金属部品の強度や硬度等の向上を目的に熱処理が行われていますが、一般的に採用されているガス式の大型熱処理炉では、温度の保持に多量の吸気と排気が必要で、多くの熱損失が発生します。本開発品は、電気・ガスのハイブリッド熱源の採用や構成機器の改良・適正配置等により、従来比で73%の省スペース化、59%のエネルギー削減を実現したこと等が高く評価されました。



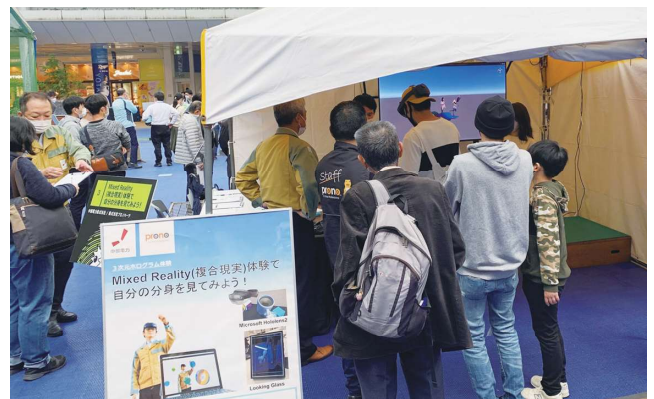
棚橋さん（左）と前所長の石川さん（右）

未来の技術に触れる体験イベント「Hatch Technology Fes 2022」に出展

2022年11月13日、14日の2日間、未来の技術に触れる体験空間イベント「Hatch Technology Fes 2022」が、名古屋市・栄オアシス21銀河の広場で開催され、当社は先端技術応用研究所が研究中のMixed Reality（複合現実）体験ブースを出展しました。

(株式会社プロノハーツとの共同出展)

ブース内に設置した3つのカメラで自分の姿をスキャンし、リアルタイムに生成された3次元映像を、ヘッドマウントディスプレイを通して現実空間上に表示させる技術を体験されたお客さまからは、「中部電力がこのような研究を行っているとは驚きました」「早く社会実装され、私たちの暮らしがより豊かになればいいですね」など、多くの反響をいただきました。



出展ブースの様子

「パワステがまごおり」に循環型社会へ貢献する植物『ソルガム』を出展

2023年1月22日（日）、蒲郡市のラグーナテンボスで開催されたイベント「パワステがまごおり」において、電力技術研究所は総務・広報・地域共生本部愛知G、中部電力パワーグリッド岡崎支社・岡崎営業所と合同で、地域資源の循環モデルを目指す植物『ソルガム』の研究開発をテーマに出展しました。

電力技術研究所で育てた全長5mのソルガムやソルガムのカスケード利用^{*}による生産物などの展示には、お子さま連れからシニア層まで約500名のお客さまが来場し、期待と応援の気持ちが込められた多くの反響をいただきました。

^{*}意味は「段階的利用」。ソルガムは最終的にバイオマス燃料にする過程でセルロースナノファイバーやバイオエタノールなど、さまざまな高付加価値品を作り出すことができます。経済性が高いため、農業や地域産業を含めた持続可能な地域循環社会の構築に資することが期待されています。



出展ブースの様子